モニタリングサイト1000
Since 2003

モニタリングサイト1000調査速報

2026年度 磯 Rocky Shores

はじめに

我が国の沿岸域は、磯、干潟、アマモ場、藻場及びサンゴ礁に代表される生物多様性の高い貴重な生態系を有しています。

私たちは、これらの生態系から魚介類や海藻などの食料を得るとともに、これらの生態系を潮干狩りや観察会などの余暇や教育活動の場としても利用しています。また、これら沿岸域生態系の機能（水質の浄化、台風等による高波を防ぐ作用、二酸化炭素を吸収する働きなど）は、私たちの生活に様々な恩恵をもたらしてくれます。

「磯」とは？

主に岩等にて形成された海岸を磯と呼びます。

磯は、岩質・波浪・干出時間・傾斜・方位等の違いにより、生物にとって複雑な微環境が数多く生み出される場所です。そのため、磯を利用する生物種は多く、生物多様性の高い生態系の一つであると言えます。また、磯では数多くの生物が岩に固着した生活様式をとっており、生活空間を移動することができないため、小さな環境変化が生物に影響を与えやすいという特徴もあります。

天草サイト（熊本県）



大阪湾サイト（大阪府）



磯調査

2008年度から「毎年調査」と「5年毎調査」の2つの調査により、各サイトで選定された解析対象種の出現有無や出現種数等の変動から磯の長期変化をとらえ、自然環境保全のための基礎情報を得ています。

2026年度の調査では、日本沿岸の6箇所のサイトで、19度目となる毎年調査を実施し、解析対象種の出現の有無などを調べます。

厚岸浜中サイト（北海道）

安房小湊サイト（千葉県）

南紀白浜サイト（和歌山県）

石垣屋良部サイト（沖縄県）

速報掲載更新履歴

☑	2026. 10. 30	厚岸浜中サイト	▶ Link
☑	Coming Soon	安房小湊サイト	▶ Link
☑	Coming Soon	大阪湾サイト	▶ Link
☑	Coming Soon	南紀白浜サイト	▶ Link
☑	Coming Soon	天草サイト	▶ Link
☑	Coming Soon	石垣屋良部サイト	▶ Link

参考情報

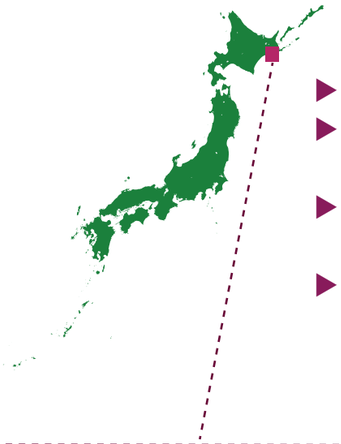
- ☑モニタリングサイト1000磯調査の調査項目と内容 ▶ Link
- ☑2025年度モニタリングサイト1000磯調査速報 ▶ Link
- ☑2025年度モニタリングサイト1000 磯・干潟　調査報告書 ▶ Link
- ☑モニタリングサイト1000沿岸域調査 磯・干潟・アマモ場・藻場 2008-2022年度とりまとめ報告書 ▶ Link

環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan

Wetlands INTERNATIONAL

モニタリングサイト1000　環境省 自然環境局 生物多様性センター Biodiversity Center of Japan　Wetlands International

厚岸浜中サイト（あっけしはまなか） - 北海道厚岸郡 -



- 北海道厚岸郡浜中町に位置する磯です。
- 海岸は砂浜、転石浜及び崖地になっており、潮だまりはほとんど見られません。
- 陸側にやや奥まった地形で遠浅のため、波あたりは弱い場所です。
- 調査地周辺は、親潮の強い影響を受ける他、数年に一度、流氷の影響を受ける場所です。



この地図は国土地理院地図を基に作成



▲ **キタイワフジツボ**：解析対象種の一つであり、本サイトで見られる固着性動物の優占種となっています。本種は、北日本から北米太平洋岸に分布する亜寒帯性のフジツボです。（嵐恒平撮影）



▲ **潮間帯上部に位置する方形枠**：解析対象種のうち、キタイワフジツボ、褐藻類のマツモ、紅藻類のフクロフノリの３種が確認され、フクロフノリが優占していました。また、植食性の貝類のクロタマキビも見られました。

調査結果の概要

本サイトでは、優占する種や外来種などの磯生物５種（フジツボ類２種：キタイワフジツボとキタアメリカフジツボ、海藻類３種：フクロフノリ、マツモ、ピリヒバ）について、設置された30個の方形枠（25×25cm）のうち、いくつの方形枠で出現したかを調べています。

今年度の調査でそれぞれの種が出現した枠の数について、マツモが24枠で最も多く、ついでキタイワフジツボ（写真b）が23枠、フクロフノリが19枠、キタアメリカフジツボが18枠、ピリヒバ（写真c）が14枠でした。

外来種であるキタアメリカフジツボの出現方形枠数は前年度と同数でした。現時点では普通に観察されるものの、優占種にはなっていません。



▲ **潮間帯中部に位置する方形枠**：解析対象種のうち、褐藻類のマツモ、紅藻類のフクロフノリ、キタイワフジツボやキタアメリカフジツボが確認され、フクロフノリが優占していました。また、植食性の貝類のクロタマキビとサラサシロガイも見られました。



▲ **調査の様子**：方形枠内の出現種を確認しています。調査当日は小雨で濃霧でした。夏ながら気温は14度と寒く、カッパと胴長を着用して調査しました。



▲ **ピリヒバ**：紅藻類（有節石灰藻）の一種です。解析対象種の 一つであり、本サイトでは潮間帯下部で見られます。（深谷肇一撮影）



▲ **潮間帯下部に位置する方形枠**：例年と同様に紅藻類のクロバギンナンソウが、岩礁の表面をほぼ覆い尽くしていました。また、少ないながらも解析対象種のピリヒバも確認されました。

調査日　2026. 6. 27

サイト代表者：野田隆史
（北海道大学大学院地球環境科学研究院）

調査者・調査協力者（所属）【撮影した写真】

野田隆史（北海道大学）　山崎湧太（北海道大学）【e】　熊本伊吹（北海道大学）　片倉陽之介（東北大学）
佐藤洸紀（北海道大学）【d】　池田旭希（北海道大学）　吉藤綾子（北海道大学）　金森由妃（岩手大学）
岡山晟大（北海道大学）　岡野　栞（北海道大学）　姚　遠（北海道大学）　野田恵太郎（北海道教育大学）
田中大誠（北海道大学）【f】　広瀬　順（北海道大学）【a】　小山　寛（東北大学）　岩崎藍子（東北大学）　阿部俊朗（たくほく）

このコンテンツを使用する際は、下記のとおり出典を明記してください。
出典：モニタリングサイト1000　2026年度磯調査速報（環境省生物多様性センター）
(https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/newsflash/pdf/rocky_shores_2026.pdf)

これまでの磯調査の報告書はこちら。
https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html
これまでの磯調査で得られたデータはこちら。
https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_rockyshores.html